

グリーンイノベーション基金事業 取組状況について

実施プロジェクト名： 電動車等省エネ化のための車載認識技術の開発

2023年6月8日

実施者名：ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社

代表名：代表取締役社長 兼 CEO 清水 照士

ソニーセミコンダクタソリューションズグループ Vision Statement

Our Mission

テクノロジーの力で人に感動を、
社会に豊かさをもたらす。

Our Vision

最高度のイメージング&センシングテクノロジーで、
映像クオリティと認識機能の限界に挑戦し、
あらゆるシーンにソリューションを展開する。

Our Values

顧客への提供価値

楽しさ・便利さ・安心・安全・高効率

社員が目指す価値（観）

一体感・オープンネス・チャレンジ



グリーンイノベーション基金事業 ソニーセミコンダクタソリューションズ環境ビジョン イメージング & センシング・ソリューション (I&SS) 分野における取組み

I&SS分野

I&SSのESG方針 「サステナビリティ コンパス」

ステークホルダー	目指す社会像	責任と貢献	マテリアリティ(重要課題)
地球	ネットゼロが実現されている社会		GHG排出による地球温暖化
	資源を廃棄せず、リユース、リサイクルされている社会		製品ライフサイクルにおける廃棄物負荷
社会	豊富な食糧・水が全ての人々に行き渡っている社会		利用可能な水資源の不足
	全ての人々が健康で安心して暮らしている社会		身体的不自由さからくる制約
人	安全で効率的な社会/交通インフラが整っている社会		交通渋滞による経済損失と環境悪化
	世界中の人がいきいきと活躍できている社会		多様な経験の機会と交流、協働が不十分
	楽しさ、便利さで、人と人の心がつながっている社会	I&SSのテクノロジーで人を感動させ、人と人の心を繋げていく	

※上記はI&SSの18あるマテリアリティからの抜粋



グリーンイノベーション基金事業取組みの背景

センシングソサエティを基盤として、車載センシング技術でカーボンニュートラル社会実現へ貢献

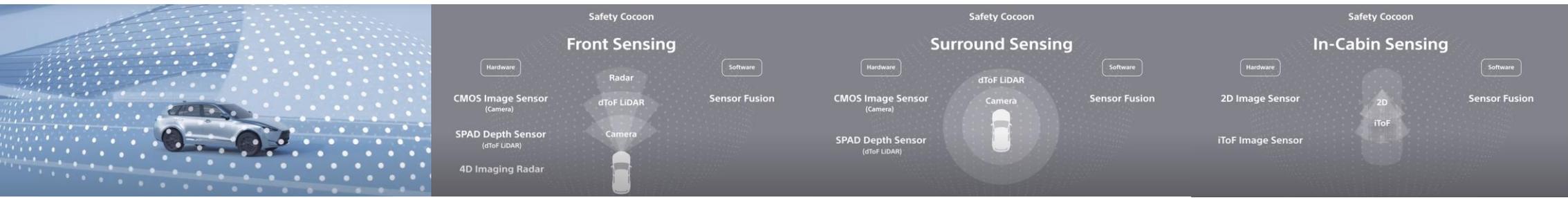
センシングテクノロジーを重要な社会基盤へ



センシング・ソサエティ



Safety Cocoon Concept



車載事業Vision Statement

Our Mission
テクノロジーの力で人に感動を、社会に豊かさをもたらす。

Our Vision
セーフティーコクーン・テクノロジーで
安全で快適なモビリティの未来を創る。

Our Values

- 【品質】 尊い生命にかかわるサービス・製品を品質第一で提供する
- 【信頼】 お客様からの高い信頼を得て、永続的な関係を構築する
- 【技術】 No.1技術で、高い目標に対し果敢に挑戦する
- 【オープン】 多様な価値観を尊重し、エコシステムを広げる

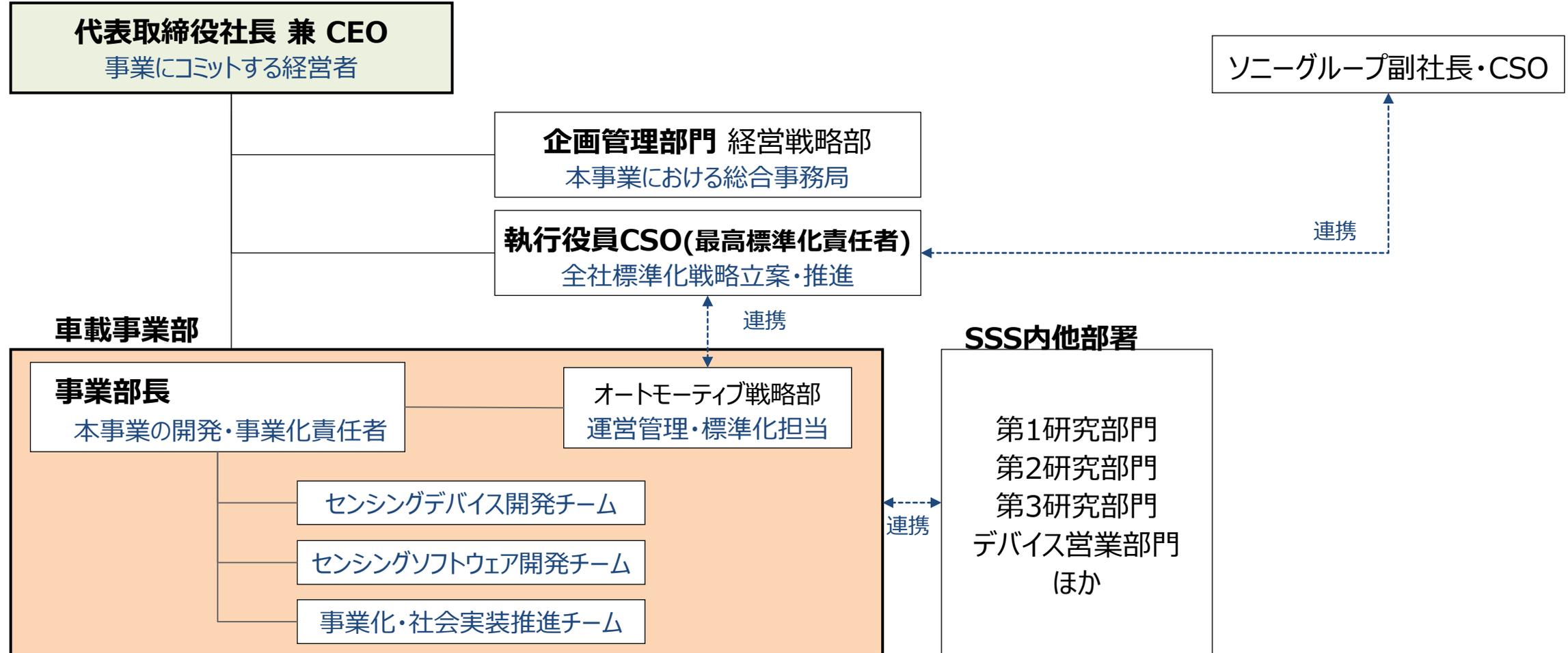
目次

1. コミットメントへの取組状況
2. 経営を取り巻く状況
3. 社会実装に向けた取組状況・課題

1. コミットメントへの取組状況：事業推進体制

経営者のコミットメントの下、車載事業部を中心に全社一体で事業を推進

組織内体制図（ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社）



1. コミットメントへの取組状況：経営者の事業への関与、経営戦略における事業の位置づけ

経営者の強いリーダーシップの下、適切な事業関与やステークホルダへの説明責任を果たす

①経営者のリーダーシップ

「Road to ZERO」の策定・推進

- ソニーグループCEO吉田は、持続可能な社会・健全な地球環境が企業活動の礎である旨を宣言
- 2050年「環境負荷ゼロ」を実現するため、環境計画「Road to Zero」を策定し、推進
- SSSは、総合的な環境負荷低減に取り組むとともに、業界トップレベルの環境パフォーマンスを目指し環境貢献が利益を生む時代を創出することをグループ環境方針と定め、社内外に訴求

②事業のモニタリング（方法、方式）

経営層がタイムリーに事業進捗を把握

- 経営層が定期的に事業進捗を把握するための仕組みとして以下を設置し、運用を開始
 - ①SSS社長と事業部間の月次定例会議
SSS社長が経営視点で状況を把握し、適切に方向性を示す
 - ②事業部内における月次ステアリングコミティ
事業責任者が開発状況を把握し、適切に方向性を示す

③経営者による意思決定反映

サステナビリティに係る経営方針を内外に発信

- サステナビリティ説明会などを通じてサステナビリティに係る経営方針を定期的に对外発表
- SSSは、グループの環境ビジョン基本方針に基づいた取組みを行うことを社内・社外に明示
- 当該事業について、カーボンニュートラル実現に資する取組みであり経営上重要な位置づけである旨、SSSならびにソニーの関連部署に向け広く周知

④ステークホルダーへの公表・説明

IR等の場を通じて幅広いステークホルダーに情報発信

- SSSは、当該事業の革新的技術による車載認識システムの高度化を進めることでモビリティの未来を創り上げていく旨をIRにおいて発信
- 投資家との対話や取材および講演会等を通じて幅広いステークホルダーに対し当該事業の重要性をメッセージとして発信
- アナリストおよびメディア向けに車載事業を含めた技術体験会を不定期に開催し、SSSが有する技術の強みや、事業の中長期の可能性に対する理解を深める機会を設定
- 社内に対しても社内イントラネット等を活用し、本事業の重要性を発信

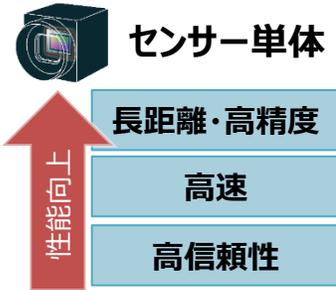
目次

1. コミットメントへの取組状況
2. 経営を取り巻く状況
3. 社会実装に向けた取組状況・課題

2. 経営を取り巻く状況：ビジネスモデル

車載センサーと認識技術による車載認識ワンストップソリューションで自動運転L4の普及に貢献

①HW：車載センサー

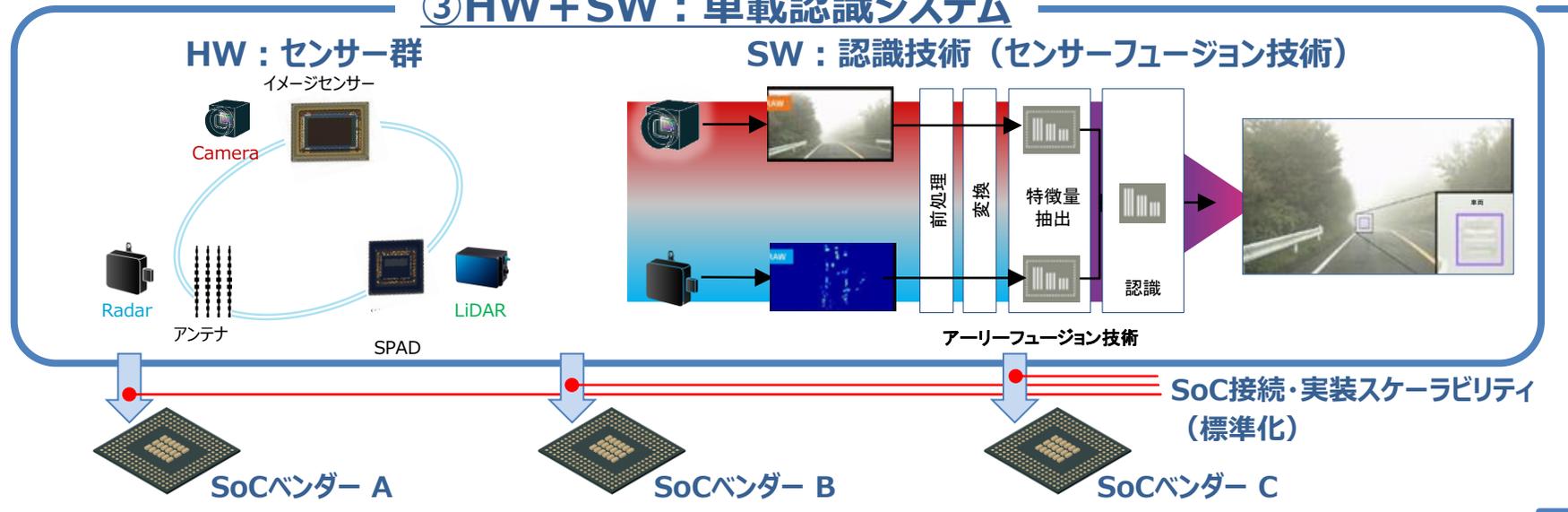


②SW：認識技術



認識性能：現行プレイヤーの競争領域⇒開発コスト増大

③HW+SW：車載認識システム



訴求ポイント：SoCを選ばずに、最適な車載認識システムで自動運転L4に資するソリューションを提供

④社会実装



- ・自動運転L4性能の実現
 - ・商用レベル低消費電力*の実現
*現行技術比70%削減
- 認識性能の高度化と省エネの両立

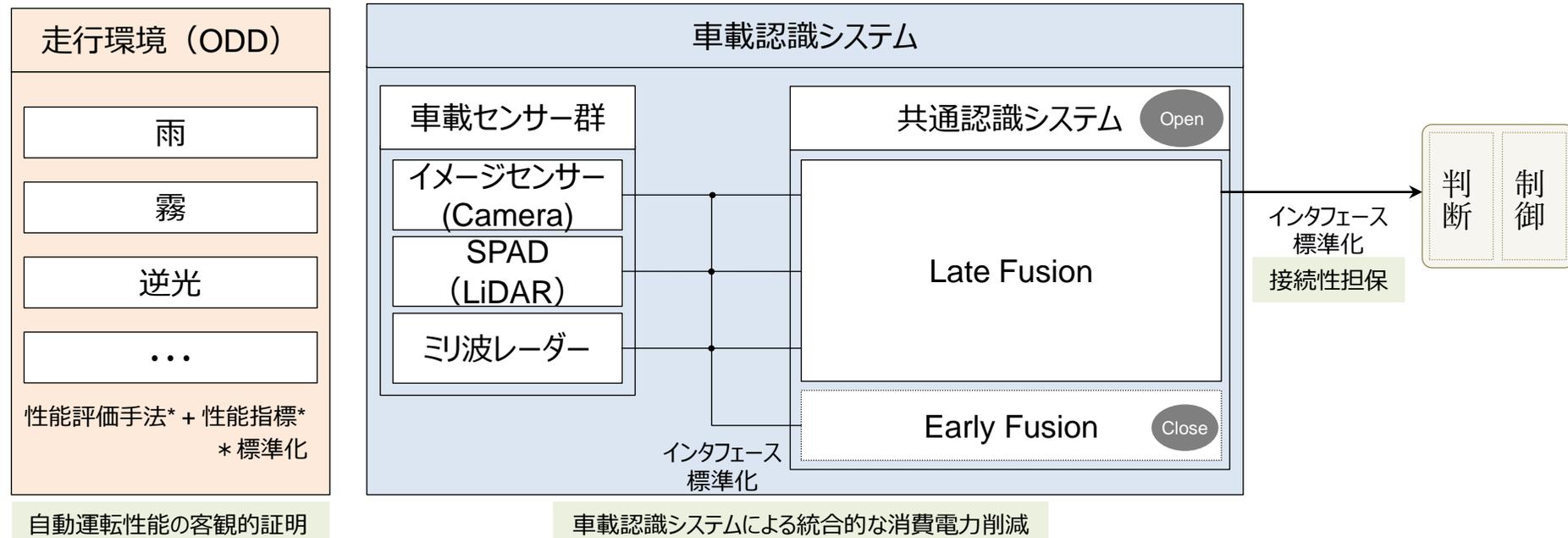
目次

1. コミットメントへの取組状況
2. 経営を取り巻く状況
3. 社会実装に向けた取組状況・課題

3. 社会実装に向けた取り組み状況・課題

自動運転レベル4に資する車載認識システムの開発概要

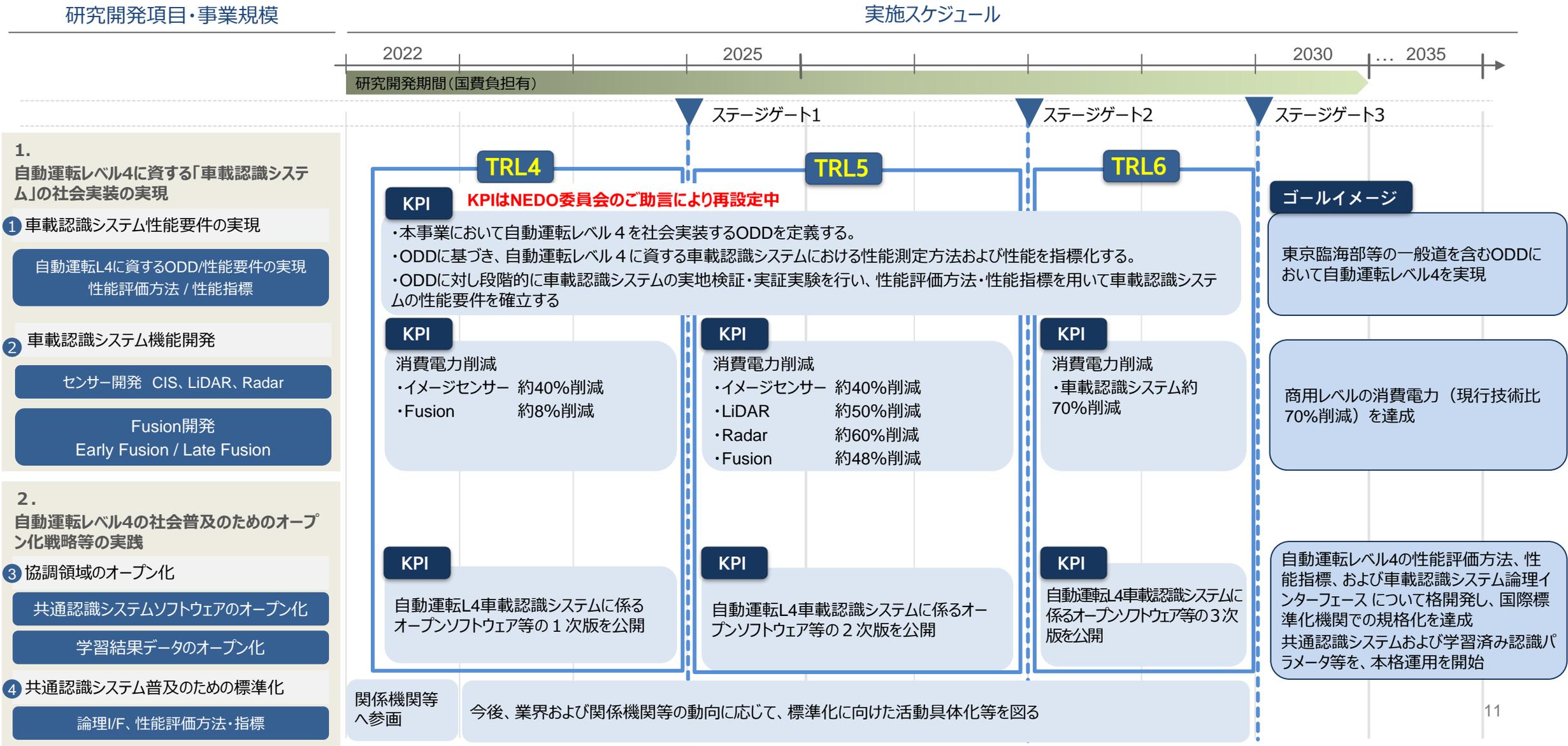
- ① 運転3要素（認識・判断・制御）において、**正確な判断・制御を行うための認識の高度化に向けた研究開発を進める。**
- ② **他社協業と標準化を効果的に進める**ことによって、**技術確立と事業成長の両立**および**社会実装の早期実現**を図る。
- ③ 車載センサー群および認識技術の**統合的な高度化等**によって、**車載認識システム全体での消費電力削減**を目指す。



3. 社会実装に向けた取り組み状況・課題

研究開発目標・研究開発スケジュール

研究開発は22年度計画に対し予定通り進捗中



SONY

SONYはソニーグループ株式会社の登録商標または商標です。

各ソニー製品の商品名・サービス名はソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。その他の製品および会社名は、各社の商号、登録商標または商標です。